

～夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子の育成～



つばさ

さいたま市立つばさ小学校

8・9月号 No. 5

令和8年7月17日

地域のつながりと祭り

校長 千明 勉

去る5月30日、31日に本校の北側に広がるうねうね公園において、地域で防災について考えてることを目的に、「uneune防災フェスタ」が開催されました。地域の方の話によれば、多くの来場者で大変盛り上がったそうです。子どもたちのなかにはバケツリレーに参加し、有事の際に想定される貴重な活動を体験したようです。6月2日付けの埼玉新聞で、このフェスタの実行委員長で本校の学校運営協議会の委員でもある片倉淳平さんが「今後もいろんな方に来ていただき、地域とつながれるイベントにしたい」とコメントされたように、有事の際に重要になるのは、地域のつながりだと考えています。

地域のつながりの観点から、本校の学区関連には、市内でも有名な祭りがいくつかあります。昭和59年から開催されている「中山道みやはらまつり」（7月19日開催）、昭和47年から開催されている「大宮日進七夕まつり」（8月6、7日開催）、そして、「江戸時代に中山道の伝馬役に出た若者たちが、街道を進行する大名や武士の宿で、旅の慰安と接待を兼ねて餅搗（つ）きしたものが芸能化した」（「さいたま市史民族編Ⅱ～季節の祭り行事と民俗芸能～」令和8年3月）と伝えられている「日進餅つき踊り」（例年1月1日開催）があります。他にも、各自治会単位で祭りを開催しているとも伺っております。

祭りについては、国が教育カリキュラムの基準を示した「小学校学習指導要領」において、社会科で取り扱うことになっています。主として県について学習する4年生の社会科では、「県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の願いが込められていることを理解すること」を通して、「地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う」ことをねらいとしております。現在、本市の4年生は、さいたま市教育委員会が作成、発行する教材「わたしたちのさいたま市」に掲載された、秩父市の夜祭りを中心に、祭りがどのようにして始まり、どのようにして受け継がれてきたのかを学習しています。

また、本校では3年生の総合的な学習の時間において、「わたしの住むまちのすてきを、探して、見つけて、広めよう」というテーマで、自ら課題を設定して、課題解決に向けて調べ、まとめる学習に取り組んでいます。地域の祭りを課題として設定し調査する子どももいるようです。先日も、宮原3丁目自治会の皆様にご来校いただき、祭りについて説明を伺い、実際に神輿を担ぐ体験にも取り組ませていただきました。そもそも祭りは、この地域だけでなく、全国で、さらに全世界で開催されるものです。それぞれに由来や歴史は異なっても、地域のつながりや発展を願う人々の思いは万国に共通するものです。

明日から40日間の夏休みです。地域の人々が協力しながら祭りに取り組む姿に触れることは、自らが地域のつながりを担う一員としての自覚を高める機会になるものですので、もし時間があれば、お子さまと一緒に地域の祭り等に出掛けてみてください。

2学期も、本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。